

## 献辞

同志社大学法学部教授・学校法人同志社総長大谷實先生の古稀を記念し、ここに記念論文集を刊行させていただきます。心からのお慶びの気持ちを込めて、本書を先生に献呈させていただきます。

先生は、一九三四年一〇月二五日に茨城県でお生まれになり、一九五七年三月に同志社大学法学部法律学科を卒業されました。学生時代にキリスト教の洗礼を受けられた先生が、建築家としても有名な宣教師のヴォーリズとともに、日本福音ルーテル賀茂川教会の立ち上げに力を注がれたというエピソードは、若い頃から精力的であった先生のお人柄を示す好例でしょう。その後、刑法学の研究を志し、本学大学院法学研究科に進学された先生は、一九六五年四月より本学法学部専任講師として、一九六七年四月からは助教授として、一九七三年四月からは教授として、四〇年の長きにわたり、同志社大学法学部での研究と教育にご尽力くださいました。

この間における先生の学内外での活躍はめざましいものがあります。学内においては、一九七六年四月から一九七八年三月まで法学部長、一九七九年四月から同年十二月まで大学長、一九九五年四月から一九九九年三月まで大学院総合政策研究科長、を歴任され、二〇〇一年四月からは学校法人同志社総

長という重責を現在も担われています。

また、学外における諸活動も多岐にわたっています。このうち、学会活動としては、一九七五年五月から二〇〇〇年五月まで刑法学会理事をつとめられたほか、一九八四年三月から二〇〇〇年三月まで法と精神医療学会理事長を、二〇〇一年六月から二〇〇四年六月まで日本被害者学会理事長を歴任してこられました。他方、社会的活動としては、一九八三年一月から一三年間にわたって司法試験審査委員を務められたほか、法制審議会委員、人権擁護推進審議会委員、日本学術会議会員、文部省大学設置・学校法人審議会専門委員、文部科学省大学視学委員などとしても、社会に貢献してこられました。こうした多方面での活躍の中でも、先生のライフワークともいえるべき犯罪被害者支援に関する取組みは特筆に値し、前述した日本被害者学会理事長として以外に、財団法人犯罪被害者救援基金評議員、社団法人京都犯罪被害者支援センター理事長、京都府犯罪被害者支援連絡協議会会長などとして、今日までわが国の犯罪被害者支援活動をリードしてこられました。こうした先生の姿が、木下恵介監督の映画『息子よ』でも描かれたことは、多くの方がご存知のとおりです。

さらに、同志社法学会としては、先生の研究者としてのご業績にふれる必要がありますが、研究年数を上回る数の著書、一五〇本を優に上回る論文が、学界・実務に与えた影響の大きさについては、周知の事実であり、今更紹介するまでもないかもしれません。刑法にとどまらず、刑事政策、精神医療を中

心にした医事法、政策科学など多方面にわたる先生のご功績は、後に続く我々にとって、到底真似することのできない高い目標として、立ちほだかり続けるでしょう。また、それだけでなく、司法試験受験生の基本書として長く支持されている『刑法講義総論』・『刑法講義各論』やさまざまな雑誌で執筆されたおびただしい数の解説類は、先生が刑法学を学生に分かりやすく伝えることに心を砕いてこられた証左といえます。教育活動の充実が叫ばれる昨今、この面での先生のご功績にも、心から敬意を払わせていただきたいと思います。

側聞したところによれば、本書のほか企画が進んでいた古稀記念論文集の刊行については、「まだまだ祝ってもらう年齢ではない」と固辞されたようですが、後進の我々をご指導いただくためにも、これからも、ますますご健勝でご活躍くださることを祈念してやみません。

二〇〇五年二月

佐藤鉄男  
法学部長